

平成 21 年 9 月 25 日

山田正彦農林水産副大臣に望む

9 月 16 日、鳩山内閣が発足し、政権は、自公民から新となる民社国連立政権に移った。明治以来百三十年来の歴史的政権交代である。官僚支配からの打破、政治化中心の眞の民主主義政治の確立。縦横大ナタを振り大改革して頂きたい。

今回の衆議院選挙長崎県選挙区は、四選挙区とも全て民主独占、グリコの「オマケ」ではないが、比例より自民党二名、長崎県は民主王国になった。勿論参議院二人は民主党である。今回何よりも嬉しいのは、負けに負け続けた、対馬、壱岐、五島の離島を含む我が第三選挙区から山田正彦が当選し、農林水産副大臣に就任した事である。今日まで、民主党の次の内閣として厚生、農林水産大臣を経験して来た、その甲斐あってやっと光がさした。

山田さんは、漁業農業問題、特に離島の問題には長年奔走して、指摘、提案して来たが、今後は、自ら政策実行する立場に変わる。これまでに聞いた離島の島民の苦しみ的心声を、政策として実行して頂き、特に対馬の抱える水産業問題、いまだ未解決の対馬西海岸に於ける大中巻網、三マイル、五マイル等の問題。今まで自民政権でやろうとしなかった事を、根本から変革する事が重要であり政権与党に与えられた責務であるはず。最大の農業問題は、イノシシ問題である。柵による被害防止策は、限度があり完全なる対策ではない。三百年前に、陶山訥庵先生が九年を掛け退治した歴史がある。今日の科学、技術の進歩からすれば、短い期間で退治は可能であろう。対馬は周り全て海、離島である。この事業を自衛隊等参加した国のパイロット事業として行い、そのデータ等を基に、全国でイノシシ問題に苦慮している地域の対策案の一つになり得る筈である。

又国境として外国に直面する離島の為に、新たな法の制定「防人新法」の制定にも力を入れて頂きたい。山田さんが議員立法で国会に提案された離島振興法改正案「離島のガソリン税の廃止」は、山田さんのライフワークでもあり、早急に実現を望みます。